

情報モラルちょっと授業

～10分で指導する情報モラル～

対象学年	中学校1年
------	-------

領域	教科指導（保健体育）
----	------------

指導項目	【保健的分野】思春期の心の変化への対応
------	---------------------

情報モラル指導モデルカリキュラム

分野	心身の発達と心の健康		
コード	i4-5	指導事項	情報社会の一員として、公共的な意識を持ち、適切な判断や行動ができる
指導のねらい	簡単に多くの情報を入手できる現在、情報に惑わされたり、犯罪の被害に遭ったりするケースも増加している。思春期の生徒が興味本位にインターネットを利用し、犯罪の被害に遭わないために、責任ある判断・行動を意識させる。		

科目・活動との関連	情報化社会は便利さだけではなく、恐ろしさも存在していることを理解させるため、実際に起きている事件の事例を活用して問題を認識させ、話し合いの場面で、責任ある判断・行動について考えさせる指導を行う。
-----------	---

利用教材（サイト等）	IT ニュースサービス INTERNET Watch http://internet.watch.impress.co.jp/cda/teens/2008/12/25/21966.html 「10代のネット利用を迫る」 の内容を口頭で紹介。 (2013年2月サイト確認)
------------	---

学習の過程（10分）	指導法	指導の留意点
<ul style="list-style-type: none"> インターネットなどからの情報入手や情報交換の経路について知る。 インターネットなどの利用頻度を知る。 ネット犯罪の実態を知る 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書にある資料（インターネットの利用がきっかけで被害にあった子どもの数）のグラフを確認する。 実際に起きた事件を紹介し、インターネットの利用から被害につながることを意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> インターネット上の情報をそのまま信じることは危険であることを意識させる。 責任ある判断・行動を意識させる

子どもの反応	中学生でも携帯電話やコンピューターなどを使って、インターネットで知らない人と情報交換を行い、犯罪の被害を受けている実態を知り、驚きや恐怖を感じた生徒が多数いた。
--------	--

実践の評価	携帯電話やコンピューターなどを通して、犯罪が起きていることを知らない生徒が多数いたことに驚いた。情報社会にもかかわらずニュースを見ていない生徒が多いことを知った。
-------	---